

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】配付申請書(選定校記載用)

(校園コード 762751)

※校園コードを入力してください。

学校名 今宮中学校

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

1 配付額 898,000 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

平成30年度の「全国学力・学習状況調査」の結果を平均正答率で見た場合、数学A・Bともに大阪市平均と同じであった。しかし、国語・理科においては、残念ながら全国平均・大阪市平均に及ばない結果であった。また、中学校チャレンジテストの結果における標準化得点では、前年度より向上傾向はみられるが、あともうかが平均に及ばない結果であった。校内での学習においては、学習意欲の向上が見られるが、家庭学習の定着には依然課題が残っているため、自主学习会等、引き続き支援していく必要がある。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

- ・2019年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・2019年度の中学校チャレンジテストにおける得点が市平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

目標に対する達成状況(取組完了時)

達成

※決算報告時に記載

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】

- ・電子黒板やタブレット等、ICTを学習活動で活用し、自分の考えをまとめ、説明できる力を高める。
- ・少人数・習熟度別授業を活用し、わかりやすい授業づくりをめざし、基礎学力の定着を図る。また、児童・生徒が漢検に挑戦したり、苦しい学習を克服したりする取り組みや、元氣アップ事業を活用した「テスト前学習会」等の「チャレンジタイム」を設定し、各自の興味関心に応じた挑戦を推進する。
- ・学校教育ICT事業による「タブレット端末の持ち帰り学習」を施行実施し、自主学习の推進を図る。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

- ・学校教育アンケートにおいて、「電子黒板やタブレットを使って自分の考えや意見をまとめて伝えることができた」に対する肯定的回答を全学年で60%以上にする。
- ・学校教育アンケートにおいて、「日々の授業や学校生活での取り組みを通じて、自分の学力を高めることができた」の項目で肯定的回答する児童・生徒の割合を65%以上にする。

指標に対する達成状況(取組完了時)

達成

※決算報告時に記載

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	購入手続き		授業用パソコン・タブレット等活用・持ち帰り学習試行実施						
効果検証	学校教育ICT活用事業								
	検証テスト					検証テスト	検証テスト		
	校内における検証					アンケート	チャレンジテスト		

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校 園 コー ド 762751)
学 校 名 今 宮 中 学 校

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 電子黒板やタブレット等、ICTを学習活動で活用し、自分の考えや意見をまとめ、説明できる力を高める。	委員会使用欄	達成
予算内訳 ・ヘッドホンセット（マイクつき）の購入 11-1 @1,600×20個=32,000円 ・キーボードの購入（タブレット端末へ接続） 11-1 @6,700×20個=134,000円 ・マウスの購入 11-1 @2,300×20個=46,000円		
期待される効果 ・学校教育アンケートにおいて、「電子黒板やタブレットを使って自分の考えや意見をまとめて伝えることができた」に対する肯定的回答を全学年で60%以上にする。 ・学校教育アンケートにおいて、「日々の授業や学校生活での取り組みを通じて、自分の学力を高めることができた」の項目で肯定的回答する児童・生徒の割合を65%以上にする。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	購入手続き		授業用パソコン・タブレット等活用・持ち帰り学習試行実施						
効果検証	学校教育ICT活用事業 検証テスト 校内における検証					検証テスト アンケート	チャレンジテスト	検証テスト	

(3) 取組内容に対する中間報告 ※中間報告時に記載

- ☐ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳 ※決算報告時に記載

※取組内容はPCDAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 少人数・習熟度別授業を活用し、わかりやすい授業づくりをめざし、基礎学力の定着を図る。また、児童・生徒が漢検に挑戦したり苦手な学習を克服したりする取り組みや、元気アップ事業を活用した「テスト前学習」等の「チャレンジタイム」を設定し、各自の興味関心に応じた挑戦を推進する。学校教育ICT活用事業において、「タブレットの持ち帰り学習」についても試行実践する。	委員会使用欄	達成
予算内訳 ・授業用パソコンの購入（習熟度教室での活用・授業研究用） 18-2 @243,000×2台＝486,000円 ・クッションケースの購入（タブレット端末の持ち帰り学習用） 11-1 @2,500×80個＝200,000円		
期待される効果 ・学校教育アンケートにおいて、「日々の授業や学校生活での取り組みを通じて、自分の学力を高めることができた」の項目で肯定的回答する児童・生徒の割合を65%以上にする。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	購入手続き		授業用パソコン・タブレット等活用・持ち帰り学習試行実施						
効果検証	学校教育ICT活用事業 検証テスト 校内における検証					検証テスト アンケート	チャレンジテスト	検証テスト	

(3) 取組内容に対する中間報告 ※中間報告時に記載

- ☐ スケジュールどおり実施できている。
- ☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
- ☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
- [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳

 ※決算報告時に記載

※取組内容はPCDAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。